

生活・小沢代表 豊根村で始動

第三極連携訴え 現実には蚊帳の外

「国民の生活が第一」の小沢一郎代表は九日、愛知県豊根村で街頭演説し、次期衆院選への地方行脚を始めた。河村たかし名古屋市長の「減税日本」など、第三極勢力との連携は進んでいないが、報道陣に「同じ志の人と協力し合うのはいいことだ」と述べた。

小沢さんは静岡、長

野と県境を接する人口千三百人の村で、軽トラックの荷台から演説。集まった五百人に「日本人の心の故郷の山村で、安心して暮らせるようにしなければならぬ」と地方重視の政策を訴えた。



置付けているため。河村市長が減税日本を国政党化し、大村秀章愛知県知事が日本維新の会の顧問になるなど、第三極の動きが活発な地域でもある。第三極の連携には

「それぞれの政党が候補を出して戦ったら、自民党と民主党を利用するだけ。愛知では大村さんや河村さんの意向も勘案して、候補を決めなくちゃいけない」と述べた。

ただ、連携に向けた話し合いでは今のところ蚊帳の外だ。維新の会は石原新党などの協議を優先。小沢さんと大村知事、河村市長との選挙協力も具体化していない。

山村を訪れ支持者と握手する「国民の生活が第一」の小沢代表(左)＝9日午後、愛知県豊根村で

今回の演説は、農村部から都市部へと支持を広げる「川上戦術」。あえて山村に向いてマスコミの注目を集め、存在感を高める狙いもある。